



平成19年10月24日

各位

会社名 日本水産株式会社
 代表者名 代表取締役社長 垣添直也
 コード番号 1332
 問合せ先 総務部長 佐藤高輝
 (TEL. 03 - 3244 - 7181)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年7月31日の第1四半期財務・業績の概況発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 中間期の業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(連結)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	275,000	10,000	9,000	5,000	18円08銭
今回修正予想(B)	267,000	6,200	5,800	1,200	4円34銭
増減額(B-A)	8,000	3,800	3,200	3,800	13円74銭
増減率(%)	2.9	38.0	35.6	76.0	76.0
(ご参考) 前中間期実績(平成19年3月期)	281,047	8,456	8,118	3,702	13円39銭

(個別)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	173,000	3,000	3,700	2,500	9円04銭
今回修正予想(B)	170,600	2,000	2,800	500	1円81銭
増減額(B-A)	2,400	1,000	900	2,000	7円23銭
増減率(%)	1.4	33.3	24.3	80.0	80.0
(ご参考) 前中間期実績(平成19年3月期)	171,723	3,050	3,750	2,511	9円08銭

2. 通期業績予想数値の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（連結）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	555,000	20,000	18,000	10,000	36円17銭
今回修正予想（B）	535,000	13,000	11,500	12,000	43円40銭
増減額（B - A）	20,000	7,000	6,500	2,000	7円23銭
増減率（％）	3.6	35.0	36.1	20.0	20.0
（ご参考） 前期実績（平成 19 年 3 月期）	552,871	16,544	16,065	9,301	33円64銭

（個別）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	345,000	6,000	7,500	5,000	18円08銭
今回修正予想（B）	344,000	5,000	6,600	11,500	41円59銭
増減額（B - A）	1,000	1,000	900	6,500	23円51銭
増減率（％）	0.3	16.7	12.0	130.0	130.0
（ご参考） 前期実績（平成 19 年 3 月期）	343,666	6,169	8,248	4,960	17円94銭

3. 修正の理由

【当中間期】

全事業で燃料費、主副原料、資機材が高騰する一方で販売価格への転嫁が進まず、収益を大きく圧迫しました。水産事業では、国内において鮭鱒の仕入単価の上昇やえび、中国産うなぎの販売数量の減少があり、南米においてアルゼンチンの漁撈事業の不振やチリの鮭養殖会社での地震、魚病の影響がありました。食品事業では、国内において特に冷凍食品や練り製品で企業間競争の激化による販促費の増加があり、北米において業務用水産冷凍食品事業の業績不振が続きました。

上記の影響より、当中間期の売上高、営業利益、経常利益、中間純利益の予想を下回る見込みです。

【通期見通し】

下半期においても上期から続いているコスト高、製品安の流れのなか、水産事業ではインドネシアのえび養殖事業の改革の遅れやチリの鮭養殖会社生産計画の大幅な減少が影響し、食品事業では北米の業務用水産冷凍食品事業が引き続き苦戦する見通しですので、業績予想を修正しております。

特別損益では、土地の売却益約 267 億円がありますが、海外子会社ののれんの減損約 65 億円などを見込んでおります。

（注）上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以上